
魔法少女リリカルなのは ～ 転生した若者のご都合主義～

カサノヴァ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは ～ 転生した若者のご都合主義～

【Nコード】

N2047V

【作者名】

カサノヴァ

【あらすじ】

突然事故死してしまった若者がスーツ姿の神によって”なのは”の世界に転生する典型的なテンプレ物のお話です。今回が初投稿です。オリ主は、ハチャメチャな設定です。こういったものが、お嫌いな方は失礼ですが読まないで下さい。働いているので更新はあまり早くないと思いますがどうぞ宜しくお願いします。初投稿でいきなり初心者を傷つけるコメントが届いたので今後感想欄は設けません。 7 / 26

目が覚めるとそこは白い空間だった（前書き）

作者は初心者です。初投稿になります。読みにくいかもしれないですが更新が遅くても完結まで書きたいと思えますのでどうか宜しく
お願いします。

目が覚めるとそこは白い空間だった

「うーっ……!?……ここはいつたい何処だ？」

目が覚めるとそこは、何も無いただ白だけの空間だった。

俺は、確か車で家に帰る途中だったはずだが？

「何で俺は、こんな所にいるんだ？」

ふと疑問に思っていると……

「それはお前さんが死んだからだ」

「!?？」

何も無いはずの空間に突然声が聞こえてきた。俺は聞こえた方に視線を向けた。

そこには一人の男性がいた、見た目は30代位で、服装はなぜだかスーツだった。

見た目はジャニーズとかにいそうな感じで、かっこ良い大人ってこんなんだろうなと俺は暢気に思いながら、ふと、先ほどの男の言葉に耳を疑った。

「!?……っていきなり現れて死んだって言われても困るんだが……もしかして俺は運転中にミスったのか？」

俺は先ほどまで自分がどうなっていたのかと考えていると、

「いいや、そうじゃないお前の前にいきなり大型トラックが突っ込んできたんだ、それでお前は回避しようとしたんだが、間に合わずにそのまま車が激突してそのまま即死したんだ、で今ここにいる理

解したか？」

男はそう言っただけに聞いてきた。

「！！？ちよつと待て、それならなぜ俺はここにいる？普通死んだなら天国とかじゃないのか？なぜ俺はこんなところにいる？」

「ああそれは単に私が偶々死んだお前を見つけてここに連れてきたんだ。」

「・・・何か酷い事とをさらつと言われてしまった。突然の事に内心ビククリしたが慌てても何も解決する訳ではないので心を落ち着かせて男に聞いた。」

「俺が死んでしまった事とここが天国とかではないのは理解した・・・で今更なんだが、アンタはいつたい誰でここは何処なんだ？」

「私は君達人間で言えば神になるな。それと私はこれと言って名が無い、だから普通に神と呼んでくれ。それと、ここは魂を転生させる為の場所だ、早速だがお前はこれから転生して新しい人生を送ってもらう。だがタダで転生をさせてやるわけでもないがな」とスーツを着た神様が言った。

「なにっ！？アンタは神なのか・・・だが何故神がスーツを着ている？俺が想像していた神とはずいぶんイメージが違うのだが。」
「俺は神に最初に思っていたことをぶつけてみた」

「・・・それはな、こつちにも色々あるんだ。」

と神は目に涙を浮かべて明後日のほうに顔を向けてしまった。

(ヤバイ！！ なにかまずい地雷を踏んでしまった)

そう思っていると神がヤバイ位に落ち込んでしまいそうだったので、

話を聞くために俺は神に話を振った

「で、転生については分かったがその条件って何だ？」

「ああ、そうだったな話が逸れた、なに簡単だよ、こちら側が指定する世界に転生してもらうだけだ。」

何とか復活した神が気を取り直して転生の条件について言った。

「なんだそれだけか、なら良いぞ・・・で、どんな世界だ？」

「お前に行ってもらう世界はお前らの世界でも人気のあるリリカルなのはというアニメの世界だ。もちろん無印からだ。」
「なのはと聞いてアニメ好きとしては嬉しいのだが・・・また疑問が出てきたので質問してみた。」

「・・・なあ質問良いか」

「なんだ？」

「なんで”なのは”なんだ？・・・それも無印から？」

この質問に対して神は

「それわな、この間知り合いの神になのはシリーズ全話と劇場版1stのDVDをたまたま貰って観てみたらかな面白かったのだから次に転生候補者が見つかったら行ってもらおうと思っただらお前が偶然事故で死んだのを見つけてラッキー・・・じゃなくて可哀そうだと思っただらこちらに来てさせて転生させる代わりになのはの世界に行ってもらったからだ。」と神から神とは思えない返事が返ってきた。

正直聞いていて悲しみのあまり涙が出てきた。

「・・・転生する世界はあの”リリカルなのは”正直嬉しいのだが行ける理由が理由なだけにこの男は本当に神なのかと一瞬疑った。”なのは”の知識はそこそこあるから記憶の引継ぎが大丈夫なら何とか対処できる。しかし行くならそれなりに強い設定に自分をカスタマイズしとかないと色んな事件（PT事件・闇の書・JS事件・その他）の際、何の役にも立たずに空気に成りかねないから、その所はちゃんと聞いてみないとそう思い俺は聞いてみた。」

「なあ〜転生するに当たって何か特殊な能力などを魔力量とか俺のデバイスなどを決める際に付けても良いか？後、前世つと云っても今のだが記憶と知識の引継ぎをさせてほしいあれば色々と役に立つからこれはなんとしても承認してもらいたい。」

俺は神に此方の条件を言つと

「・・・良いだろう多少の事なら聞いてやるつもりでいたからな。とんでもないものでもない限りはそちらの希望を叶えてやってもらいぞ。」

神からOKが出たので、俺は今まで考えていた”欲”と言う名の希望を可能かなと思える範囲で言つてみた。

「ならまずは、自分の身体から男女2パターン作りたい。男の方は髪が黒の短髪（イメージはStrikesに出てくるスバルみたいな長さの男の子版）目も黒色の日本の男の子で見た目もなのは達といても大丈夫な容姿で、次に女の方は容姿はおとボク2の侑雅楽乃あゆまので、男女ともどんなに食べても太らない身体でよろしく。」

「・・・なぜ二つなんだ別に一人どちらかにすればいいだろう？」
神はあきれ気味に言ってきた。

「ああ、これは単にそのまま転生をしても楽しくないからレアスキルの1つとして欲しかったんだ。変身魔法代わりに使えるし、楽しそうだから。まあ基本は男のままにいるがな。」と俺が言うところ

「はあ……まあいい次は他のものについて聞こう。」

神は俺の説明にため息をつきながらも聞いてくれた。

「まず魔力量はEXランクに陸空両ランク共にSSSランク。術式はベルカ、ミッドのハイブリットで戦闘スタイルは男時は主に刀や剣（スパロボのダイゼンガーの斬艦刀など）で長距離攻撃用にAI搭載のRIGANパワード（人間サイズ版）を戦闘時に呼んで、砲撃するときにトロニウム・バスターキャノンに変形できる設定で、女時は、なのはのレイジング・ハートのような杖型で、キャノンモードはデジモンに出てくるリリモンのフラワーカノンみたいな形に先端が変形するように後キャラたちと被るが召喚術も使える設定に、そしてバリアジャケットは、男時は遊戯王カードのロード・ウォーリアーツイン・ハード・ストライクのような格好で高速戦をするときにビルドビルガーのTBSみたいにジャケットを一部ページするように、バスターキャノンをつときはジャケットが元に戻っている仕組みで、反対に女時はジャケットの色は劇場版なのはのバリアジャケットの青い部分をオレンジ色にしたバージョンでさらに腰の左右に色んなアイテムとカートリッジの弾丸のストックを入れるポーチがついたものでよろしく。」

「ウン……まあ良いか、なら次はそんな内容が可能なデバイスの名前と形状を決めてくれ。」

俺の要望を聞いて神は何か言おうとしたが諦めて次を聞いてきた

「名前は、ホーリー・スター。形状はレイジングハートを青色にしたもので待機モード中は六亡星がついたネックレスの真ん中に入っ

ている形でセットアップの時は飛び出てセットアップが開始する感
じで。」

「なら最後にお前が付きたいレアスキルを決めてくれ」

「俺が付きたいレアスキルは、まず最初に言っていたが性別が変われる事と超高性能の機能と設備を合わせた次元航行艦一隻の創造と運用スキル、死者蘇生とそれなりの医療魔法が使えるのと、俺が覚えていたマンガ・アニメ・ゲームの道具を自分の魔力で生成が出来ること。以上だ」

俺は兎に角チートな要望を神に言ってみた。

そんな俺の要望に神は

「・・・十分チートだな。」と言ってシド目で見てきたがそこは軽くスルーした。

そんなこんなで、俺は神に言った望み（というか欲丸出し）を何とか叶えてもらって最後の確認に移った。

「じゃあ最後に転生するに当たつての注意事項なんだが、どこかで聞いたことがあるかも知れないが転生先では前世の名前は名乗れないだから新しい名前を考えてくれ。」

「そうなのか!? まあ仕方ないか元々事故の後遺症か名前だけがどうも思い出せないから、この際新しい名前でもいいや、なら新しい名前は遼しゅう、女めの時は藍那あいなで。」

「そうか、なら遼よ、お前の新しい人生が私を満足させてくれる事に期待しているぞ」

「まあ、頑張れる範囲でやってみるよ。」そう答えて俺は”なのは”の世界へと転生した。

目が覚めるとそこは白い空間だった（後書き）

はじめまして、カサノヴァです。

今まで読む側だったのですが、今回おもいきって書いてみました。

文章力は書きながら鍛えていくので拙い文ですがどうぞ宜しくお願
いします。

感想や意見を頂けると嬉しいですが心無い中傷や作品荒しだけは絶
対しないでください。

最後に注意事項として、主人公の女の子設定に選んだおとボク2の
昶雅楽乃を調べられる際は18歳以下の人はWikipedia
かPSP乙女はお姉さまに恋してる2人のエルダーで検索して下さ
い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2047v/>

魔法少女リリカルなのは ~ 転生した若者のご都合主義 ~

2011年10月9日11時52分発行